医療機関の不便さは？

受付で名前を呼ばれても分からない。

医師、看護師の説明が分からない。

マスクをしたまま話されても分からない。

聴覚障害者にわかるように伝えてくれる
医師、看護師が少ない。

災害時の情報保障がない。

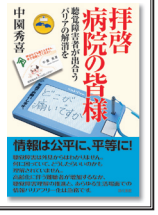
補聴器や補聴援助機器に関する
情報を教えてくれない。

その他

- 常に受付や番号表示を見続けなければならないのが苦痛。
- 番号札の音声案内が聞こえない。
- 補聴器で話しが通じていると、誤解される。
- 大事なことでもなかなか筆談してもらえない。

「聴覚障害者にも優しい医療機関を目指して」、講演の出前、引き受けます。

中園秀喜（ペンネーム　岩渕紀雄）。大分県生まれ。ベター・コミュニケーション研究会会長バリアフリー・アドバイザー 。国土交通省、経済産業省、厚生労働省、総務省消防庁などバリアフリー・ユニバーサルデザイン関係委員、NHK「聴力障害者の時間」司会歴任。著書多数。各種表彰受賞。

「拝啓　病院の皆様」- 聴覚障害者が出合うバリアの解消を -（現代書館、2100 円）これは、ガンの宣告を受け、検査、入院、手術を通して医者、看護師、臨床検査技師、栄養士とやり取りするなかで出合った聴覚障害に関する無知、勘違いの数々。病気の不安と情報バリア（障壁）と苦闘する体験の中から、医療現場での情報保障のあり方を具体的に提言。

お問い合わせは右記に。nakazono@wp1.co.jp　FAX　03-5385-7776(直通)